

# 01

## POINT

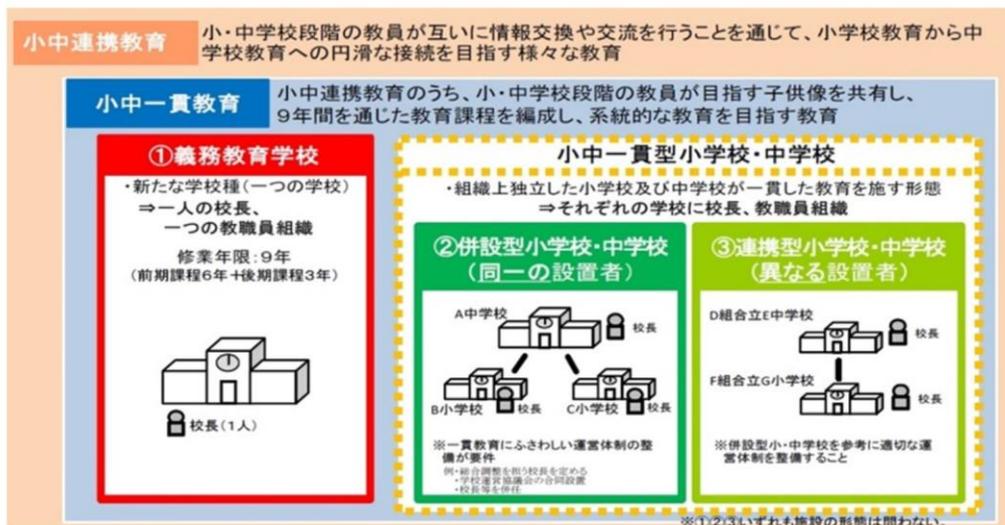
小中一貫教育  
社会の状況

1

前段として今回の説明をご理解いただくうえで上でポイントとなる「小中一貫教育」と「社会の状況」について説明します。

## 小中一貫教育

- ・小中一貫教育とは、小・中学校の教員が目指す子ども像を共有するとともに9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育。
- ・「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校」の大きく2形態に分けられる。
- ・校地・校舎については、主には「一体校舎・同一敷地内に併設・離れた場所に立地」と分類できるが、その「あり方」は多種多様である。

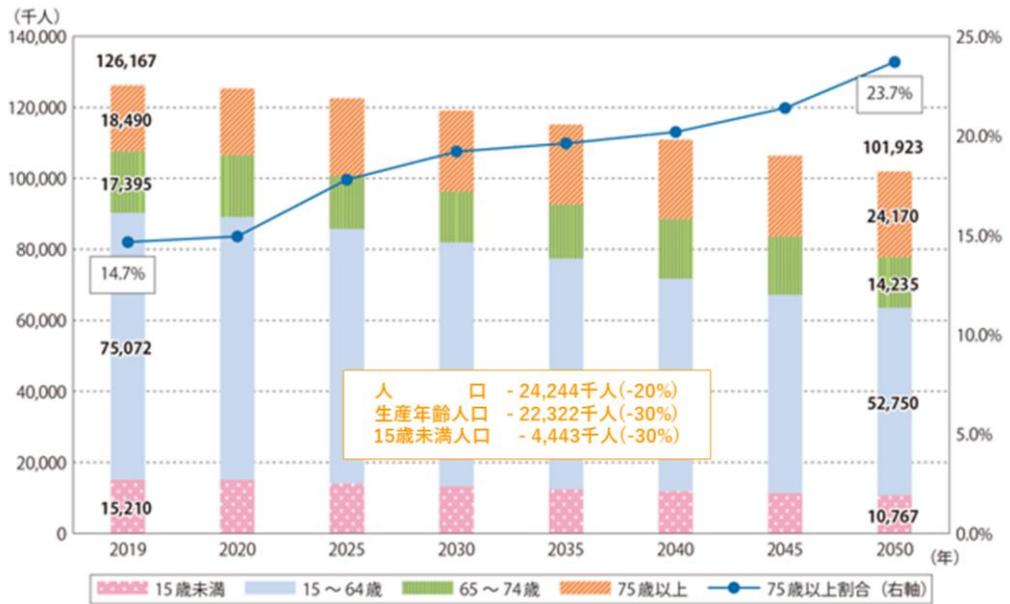


2

※義務教育学校：一つの学校として組織されており、平成27年の学校教育法改正で新たな学校種として制度化された。  
 ※小中一貫型小学校・中学校：組織上は独立した小・中学校が運用で一貫した教育を実施する

- ・小中一貫教育とは小学校と中学校の9年間を通じた系統的な教育を指します。
- ・小中一貫教育という同一の学校で1年生～9年生が勉強していると思われがちですが、必ずしもそういう意味ではありません。
- ・小中一貫教育は教育の制度であり、義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校があります。
- ・それぞれの違いは校長先生が一人か小学校、中学校ごとにいるか等の組織的な違いとなります。
- ・学校の形態はどちらも同一敷地内にある併設、別の敷地にある分離いずれも考えられます。
- ・今回の説明の中の「小中一貫教育」は9年間を通じて子どもを育てる系統的な教育を指します。

社会の状況



3

資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2017年推計)」の出生中位(死亡中位)推計より、国土交通省作成

- ・次に社会の状況について、ご説明します。
- ・日本の将来人口推計ですが、こういったグラフをご覧になった方も多いと思います。
- ・人口が減少することに目が行きがちですが、15歳未満人口と生産年齢人口が大幅に減ってしまうことが重要です。
- ・働く人が大幅に減ってしまうことが大きな課題となります。

The screenshot shows the MIC website interface. The main content area is titled '第1部 特集 人口減少時代のICTによる持続的成長' (Part 1 Special: Sustainable Growth in the Age of Population Decline by ICT). Below this, there is a sub-section '第5節 ICTの進化によるこれからのこと' (Section 5: Future with the Evolution of ICT). The text discusses the realization of occupations through automation and AI, citing research from Oxford University and the University of Cambridge. It notes that while AI may replace some jobs, it will also create new ones, leading to a net increase in jobs. The diagram at the bottom illustrates this process in three stages: 1. AI introduction, 2. AI application expansion, and 3. AI realization of occupations. It shows how AI can take over routine tasks, allowing humans to focus on more complex and creative work, which in turn creates new job opportunities.

- ・オックスフォード大学のマイケル・オズボーン教授が「AIが人間の仕事を奪う」と論文に書いたのは話題になりました。
- ・本当にそうなるかはわかりませんが、ICTが進むことで「職種」「働き方」が変わることが総務省のHPでも指摘されています。

### 人口減少のさらなる進行

- 【生産年齢人口の減少】
- 【少子化の進展】

### 社会の急激な変化

- 【グローバル化の拡大】
- 【AI、IT化のさらなる進展】
- 【社会構造、雇用環境の変化】

一人一人が社会の担い手として  
社会の成長につながる価値を  
生み出していくことが必要

平成29年に学習指導要領が全面改訂  
教育の転換期

- ・このように人口が減り、働く人がいなくなることで、働き方や社会構造が変わっていきとされています。
- ・また、社会に出るすべての人が活躍する必要が出てきます。  
極端に言うと、100人が社会に出て50人が活躍できるのではなく、50人しか社会に出ないので50人全員が活躍する必要があるということになります。
- ・産業構造も2次産業から3次産業へと推移する中で、日本は他の諸外国に比べて生産性が低い、給料が安いとされています。
- ・それにも関わらず学校のスタイルは変わっていません。皆さんも私も子どもたちも同じスタイルで教育を受けています。
- ・そういった日本の教育がダメということではなく、社会が変わる中で、子どもの育て方、人材の育み方も変わらないといけない時代に入っているということになります。
- ・そのため、平成29年には、学習指導要領が全面的に改訂され、教育の転換期を迎えています。
- ・このような時代背景があるということをご理解いただいた中で次に小諸市の状況についてご説明します。

# 02

## 小諸市の状況

4つの課題

6

小諸市の教育における4つの課題を挙げます

4つの課題

不登校



学力



学校施設の老朽化



児童生徒数の減少



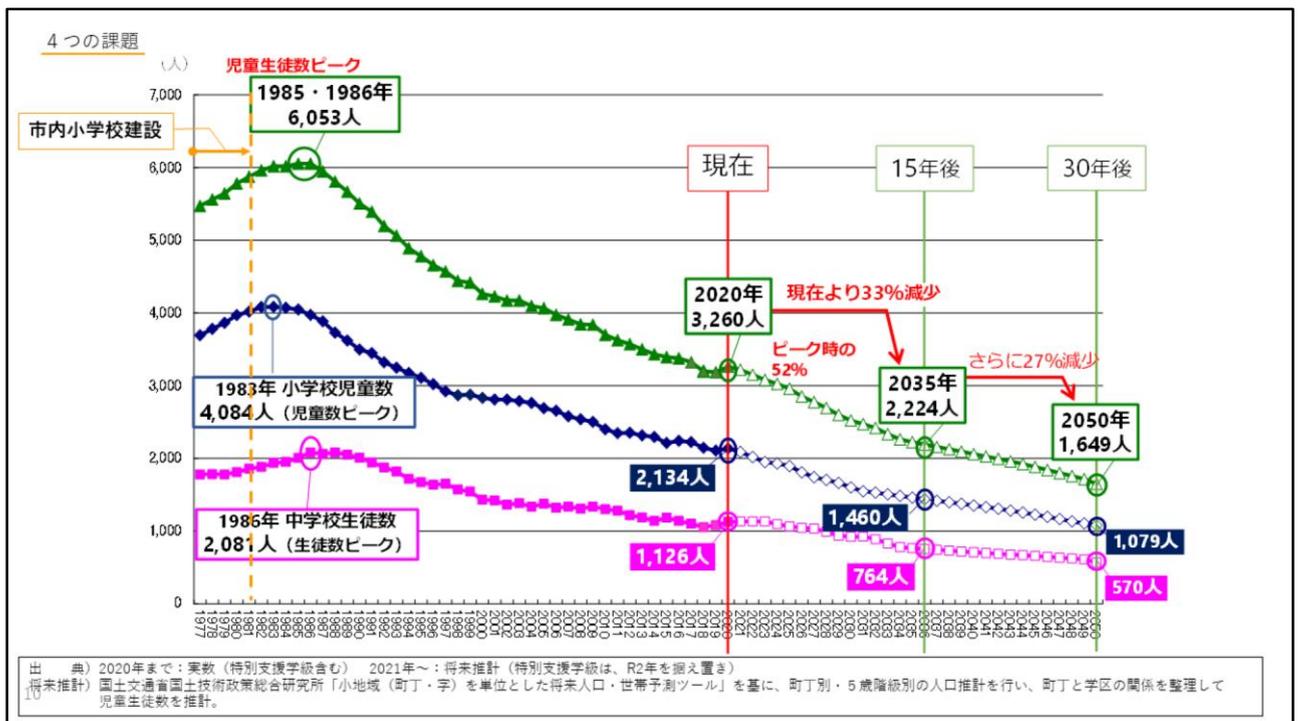
7

- ・小諸市の教育における主な課題として、不登校、学力向上、学校施設の老朽化、児童生徒数の減少があります。
- ・不登校、学力の向上については、先ほど指導主事の先生からご説明があった通りです。
- ・私からは学校施設の老朽化と児童生徒数の減少についてご説明いたします。



・市内には6つの市立小学校がありますが、いずれも建築後40～50年が経過しております。





- ・次に児童生徒数ですが、児童生徒数はピーク時の約半分となっており、市内の小学校建設は児童生徒が一番多かった時に設計されたものだということがわかります。
- ・将来的には、さらに児童生徒数が減少する予想となっております。
- ・各学校ごとに数字に表すと次のページになります。

4つの課題

学校名	R3		R13			
	児童生徒数	学級数	児童生徒数	減数	学級数	減数
東小学校	437	15	327	-110	13	-2
野岸小学校	284	12	205	-79	10	-2
美南ガ丘小学校	615	20	494	-121	18	-2
小諸東中学校	682	20	585	-97	18	-2
合計	2,018	67	1,611	-407	59	-8
坂の上小学校	290	12	198	-92	6	-6
水明小学校	325	12	215	-110	10	-2
千曲小学校	90	6	71	-19	6	0
芦原中学校	410	12	297	-113	10	-2
合計	1,115	42	781	-334	32	-10

10年後

11

- ・ R3年とR13年の各中学校区ごとの集計比較となります。
- ・ 児童生徒数が減ることも課題ですが、それにともない学級数が減りことも大きな課題です。
- ・ 芦原中学校区では2小学校が1学年1学級の単学級となり、中学校も1学年3学級程度となってしまいます。
- ・ 施設の老朽化、児童生徒数の減少から学校施設再編の必要性が考えられるようになりました。

# 03

## 学校再編にかかわる取り組み

平成28年～	小諸市長期学校改築計画検討会
平成30年	長期学校改築に関する懇談会・懇話会
平成31年～	小諸市学校教育審議会
令和2年～	小諸市学校再編検討会
令和4年～	小諸市学校再編計画検討懇話会

13

- ・再編の取り組みは平成28年の長期学校改築計画検討会から本格化しました。

平成28年～	小諸市長期学校改築計画検討会
平成30年	長期学校改築に関する懇談会・懇話会
平成31年～	小諸市学校教育審議会
令和2年～	小諸市学校再編検討会
令和4年～	小諸市学校再編計画検討懇話会

14

- ・まずは、「長期学校改築計画検討会」の具体的な内容を説明いたします。

小諸市長期学校改築検討会

目的	課題に対するこれからの学校の姿を考える
メンバ	有識者、PTAの代表、幼保保護者代表、市民など
結果	提言書にまとめ、教育委員会に提出

提言書概要

提言1 少子化の進展に対応した小中学校のあり方

未来に生きる小諸市子どもたちのために、学校教育の変化や多様な子どもの教育的ニーズに対応できる学習環境を整える

提言2 望ましい小学校の規模

1学級20～30人前後、1学年少なくとも2～3学級

※附帯事項 「望ましい学校の姿」の実現のため、市内小学校は再編が必要な状況

提言3 小中学校の配置及び校区について

・区の中で学校が複数に分かれることのないよう、学校再編とあわせて通学区の見直しも検討する

・小中一貫教育制度のあり方についても検討する

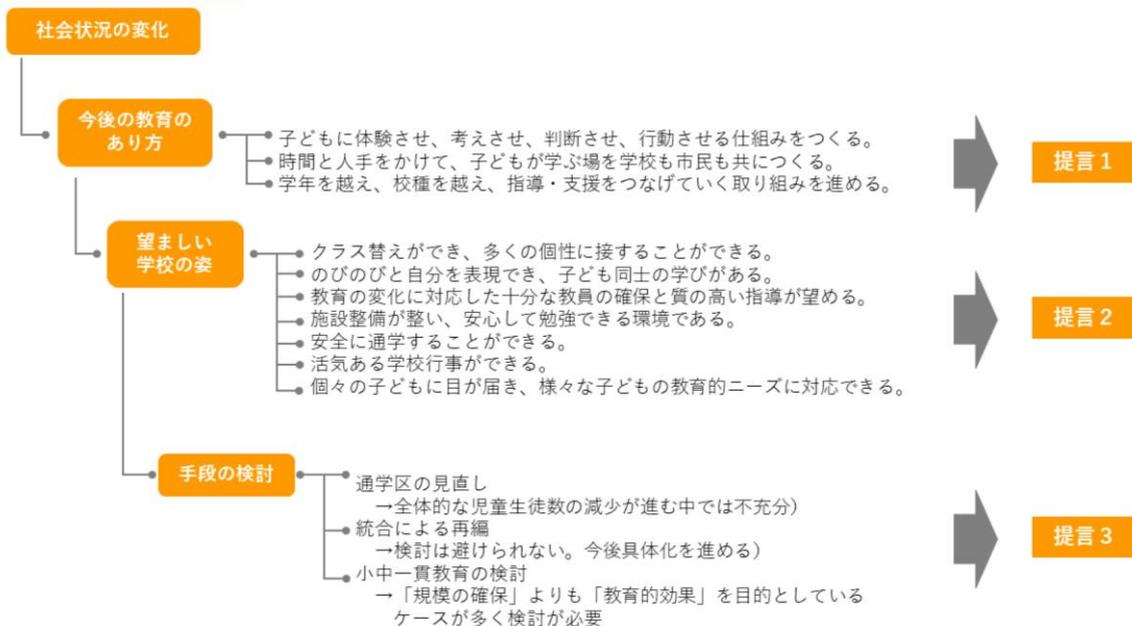
※学校再編にあたっては通学路の安全確保や遠距離通学に配慮すること

- ・目的、メンバ、結果は記載のとおりです。
- ・この会で話し合われたことが、「

教育委員会

に提出されました。

- ・なぜこのような提言になったかを次のページでご説明いたします。



・施設面からのみ再編をかんがえるのではなく、社会状況や子どもの減少を考え、まずは今後の教育のあり方を考えました。それが、「子どもに体験させ、考えさせ、判断させ、行動させる仕組みをつくる」「学年を越え、校種を越え、指導・支援をつなげていく取り組みを進める」等となりました。

・そして、今後の教育のあり方を実現するための望ましい学校の姿は「クラス替えができ、多くの個性に接することができる」「子ども同士の学びがある」「十分な教員の確保と質の高い指導」等とあります。

・小規模校になると目が届きやすくなるという点は良いのですが、今後の教育のあり方の実現は難しくなります。

また、学級数の減少は教員の減少となるので、現在検討されている小学校での教科担任制への導入等教育的な影響が出ることが考えられます。

そのため、望ましい学校の姿として「1学級20～30人前後、1学年少なくとも2～3学級」という提言をいただきました。

・望ましい学校の姿を実現するための手段として、通学区の見直し、統合による再編、小中一貫教育の検討が必要としています。



平成28年～	小諸市長期学校改築計画検討会
<b>平成30年</b>	<b>長期学校改築に関する懇談会・懇話会</b>
平成31年～	小諸市学校教育審議会
令和2年～	小諸市学校再編検討会
令和4年～	小諸市学校再編計画検討懇話会

18

次に長期学校改築に関する懇談会・懇話会です。

長期学校改築に関する懇談会・懇話会

平成30年

5月～7月

→ 長期学校改築に関する懇談会

└ 提言書について小学校ごとに市民説明会を実施

9月

→ 長期学校改築に関する懇話会

└ 懇談会の開催報告、小諸市学校改築・再編基本方針（案）の説明

11月

→ 小諸市学校改築・再編基本方針の策定



- ・長期学校改築計画検討会の提言を受け、教育委員会では、各小学校区で提言書の内容を説明、意見交換をしました。
- ・その結果の報告、小諸市学校改築・再編基本方針(案)の説明を懇話会で実施いたしました。
- ・そして、小諸市学校改築・再編方針を策定しました。

## 小諸市学校改築・再編基本方針

### 基本的な考え方

未来に生きる小諸市の子どもたちのために、学校教育の変化や多様な子どもの教育的ニーズに対応できる学習環境を整えることを最大の目的として、学校施設の改築・再編を進める。この目的を踏まえ、個別具体案の検討においては、地域防災や地域・卒業生の思い等を考慮しながらも、「小諸市で育つ子どもたちにとって『より望ましい学校の姿』はどうあるべきか」という視点を最優先として議論を進める。

### 望ましい小学校の規模

望ましい小学校の規模は、「1学級の児童数が20～30人前後」で「1学年の学級数が少なくとも2～3学級」とする。この望ましい「小学校規模」と今後の児童数の推計値を踏まえ、小諸市の子どもたちにとって「望ましい学校の姿」の実現のために、市内小学校の再編が必要な状況であることを明確化する。

### 小中学校の配置及び校区

- ・区の中で学校が複数校に分かれることのないよう、学校再編とあわせて通学区の見直しも検討する。
- ・小中一貫教育制度のあり方について検討する。
- ・学校再編にあたっては通学路の安全確保や遠距離通学に配慮する。

- ・基本方針の内容としては提言書を受けて、その内容をさらに深めることとしており、そのための組織として「学校教育審議会」を組織し、諮問しました。

平成28年～

小諸市長期学校改築計画検討会

平成30年

長期学校改築に関する懇談会・懇話会

平成31年～

小諸市学校教育審議会

令和2年～

小諸市学校再編検討会

令和4年～

小諸市学校再編計画検討懇話会

小諸市学校教育審議会

目的	提言を受け策定した基本方針に基づきより具体的な小中学校の改築・再編計画を策定するために諮問
メンバ	有識者、PTAの代表、幼保保護者代表、市民など
結果	答申としてまとめ、教育委員会に提出

答申の概要

01 より望ましい学校の姿

- ・児童生徒「一人一人」の学びを支える教育の推進を図る学校

02 育てたい児童生徒の資質・能力

- ・認知的能力だけではなく、非認知的能力、言語能力

03 学校の形

- ・施設一体型の義務教育学校にすることが理想だが、小中一貫教育を芦原中学校と小諸東中学校を学区とする併設型小学校・中学校の形態で推進することが望ましい。
- ・小学校を再編する場合は少しでも中学校に近いこと。

04 再編方法

- ・芦原中学校区の小学校の再編は、3校（坂の上、水明、千曲）を統合し1校とすることが望ましい。
- ・小諸東中学校区は野岸小学校、東小学校を統合した学校と美南ガ丘小学校の2校に再編することが望ましい。

05 通学区

- ・坂の上小・千曲小・野岸小・美南ガ丘小に重なる通学区の見直し。
- ・古城区は芦原中学校区、その他の区は野岸小・東小学校区とすることが望ましい。

- ・審議会において、基本方針に沿って審議いただき、「より望ましい学校姿」「育てたい児童生徒の資質・能力」「そのための学校の形」「実現するための再編方法」等について答申をいただきました。

社会状況の変化  
(30年後の小諸市)

- ・生産年齢人口は約半分になると予測
- ・「小諸市の税収」「職場で働く人」「地域で生活を支える人」が減少する

どの子どもも一人一人がこれからの社会を支える貴重な人材

育てたい  
児童生徒の  
資質・能力

- ・自分の考えを言葉に表せる力
- ・取り組んでみようとする意欲
- ・自分もやればできるという自信
- ・人間関係形成能力
- ・コミュニケーション能力

育て方

- ・「資質・能力」は、成長の段階を踏んで継続して育成されるため、小中の先生方が「児童生徒がどのように育つことを目指すか」目標と指導方針を共有し、育成する。
- ・小学校と中学校9年間を通して連続的・系統的に指導すること。
- ・先生個人ではなく、学校組織として子どもを育てる
- ・学校を再編し、学校職員と行政サービスを集約
- ・市民、地域の力の活用

学校の形

- ・施設一体型の義務教育学校にすることが理想だが、小中一貫教育を芦原中学校と小諸東中学校を学区とする併設型小学校・中学校の形態で推進することが望ましい。

再編方法

- ・芦原中学校区の小学校の再編は、3校（坂の上、水明、千曲）を統合し1校とすることが望ましい。
- ・小諸東中学校区は野岸小学校、東小学校を統合した学校と美南が丘小学校の2校に再編することが望ましい。

23

- ・答申の概要を説明します。
- ・社会状況が変化する中で、「どの子どもも一人一人がこれからの社会を支える貴重な人材」であることから、児童生徒一人一人を育てることが必要ですが、そのためには段階的、継続的な育ちが必要です。
- ・育てたい子どもの資質能力を小中学校の先生が共有し、9年間を通じて一貫して育てる必要があります。
- ・そのためには義務教育学校を理想としながらもまずは小中一貫教育を実現することが望ましい。としています。
- ・児童生徒の減少が著しい芦原中学校区の3小学校は早急に統合し、小諸東中学校区は2校体制とすることとされています。

見える化



・また、より望ましい学校の姿については、「見える化」することでわかりやすく伝えるようにしております。

平成28年～	小諸市長期学校改築計画検討会
平成30年	長期学校改築に関する懇談会・懇話会
平成31年～	小諸市学校教育審議会
令和2年～	小諸市学校再編検討会
令和4年～	小諸市学校再編計画検討懇話会

25

続いて、学校再編検討会です。

平成28年～	小諸市長期学校改築計画検討会
平成30年	長期学校改築に関する懇談会・懇話会
平成31年～	小諸市学校教育審議会
令和2年～	小諸市学校再編検討会
令和4年～	小諸市学校再編計画検討懇話会
	小諸市学校再編計画検討協議会

26

同時期に学校再編計画検討協議会にて再編に向けた検討資料を作成しましたが、今回は時間も限られていますので、今後の懇話会の中でお示しする予定です。

小諸市学校再編検討会

目的	答申の内容を教育委員会として、理解、研究方針を決定する。
メンバ	小諸市教育委員
結果	小諸市学校再編基本構想としてまとめた

基本構想のポイント

01 学校再編

- ・答申を受けて、教育委員会として「小中一貫教育の推進」「学校の再編」を明示

02 部局横断的な取り組みの推進

- ・校地選定、学校のコミュニティスクール等において公共施設マネジメントの考え方を取り入れていくことを確認

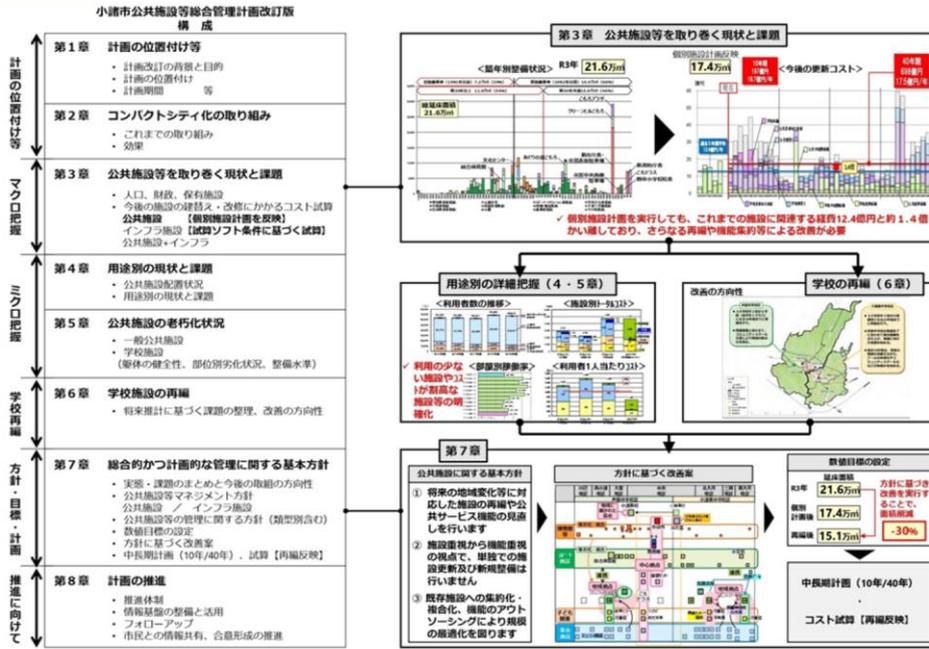
教育委員会で実施した学校再編検討会では、学校教育審議会から受けた答申を研究し「小諸市学校再編基本構想」をまとめました。

小諸市学校再編基本構想

<p><b>基本的な考え方</b></p>	<p>学校の姿 児童生徒にとって「私より良く成長し、未来への希望や志が持てる学校」                  学校規模 1学級20～30人前後・1学年少なくとも2～3学級                  取り組み 児童生徒「一人一人」の学びを支える教育の推進</p> <p>・「学ぶ基礎を培い、学びや体験を通して自己理解を深め、将来への希望や志の持てる子ども」を育成                  ・認知的能力（読み書き能力、与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力）・非認知的能力（忍耐、自己肯定感、社交性、誠実性、情緒安定性等）言語能力を計画的・継続的に育む                  ・小中一貫したカリキュラム（教育活動）をつくり、カリキュラム・マネジメント（児童の実態、指導に当たる教職員の力、地域の特色等に即した教育活動を営む取り組み）</p>
<p><b>小中学校の再編</b></p>	<p>・中学校区ごとに学校の再編統合を進めていく                  ・芦原中学校区の水明、坂の上、千曲小学校は統合する                  ・学校ごとの人口推計に基づき、芦原中学校区を喫緊の課題として早急に再編統合を進める</p>
<p><b>芦原中学校区</b></p>	<p>〈3校の再編統合にあたり次の点について考慮が必要〉                  ・統合校は芦原中学校に可能な限り近く、既存3小学校からなるべく離れないこと                  ・校地は全ての施設を含め25,000㎡程度を確保できること                  ・児童生徒の安全を考慮し、土砂災害（特別）警戒区域等を避けること</p>
<p><b>小諸東中学校区</b></p>	<p>・芦原中学校区の小学校の再編統合後に検討する                  ・再編統合前でも芦原中学校区と同じゴールを目指してカリキュラムを統一するなど、できることから実践していく</p>
<p><b>部局横断的な取り組み</b></p>	<p>・校地選定、学校のコミュニティスクール等において公共施設マネジメントの考え方を取り入れていくことを確認</p>

28

- ・基本構想では、基本的な考え方として、改めて1学級20～30人前後、少なくとも2～3学級の学校を維持することとし、児童生徒「一人一人」の学びを支えるために小中一貫教育を推進することとしております。
  - ・また、基本的な考え方を実現するために中学校区ごとの再編を進めることとし、芦原中学校区の早急な統合を示しました。
  - ・そして、統合する上での検討事項を追加しました。
  - ・また、小諸東中学校区については、芦原中学校区再編後に検討を進めることとしましたが、小中一貫教育の導入は共に進めることとしております。
  - ・最後に、部局横断的な取り組みについて説明します。
- 学校再編統合を検討する場合に、小中学校も公共施設の一部であることから小諸市の公共施設管理の考え方にも沿う必要があります。しかし、教育社会施設以外は、他部署の管轄であることから、総合的に考える必要があります。そのため、一元的に検討するために、財政課とも一緒に進めていくこととしました。
- ・詳細は、財政課の担当よりご説明いたします。



平成28年～	小諸市長期学校改築計画検討会
平成30年	長期学校改築に関する懇談会・懇話会
平成31年～	小諸市学校教育審議会
令和2年～	小諸市学校再編検討会
令和4年～	小諸市学校再編計画検討懇話会

30

- ・最後に本懇話会についてです。

#### 小諸市学校再編計画検討懇話会

目的	小諸市学校再編計画（案）を策定するために多くの意見を反映する
メンバ	有識者、PTAの代表、幼保保護者代表、市民など
結果	小諸市学校再編計画（案）の策定

## 01 SCHEDULE

令和4年9月より令和5年3月まで月1回もしくは2回懇話会を実施

令和4年11月を目途に視察を実施

令和5年3月に小諸市学校再編計画（案）を策定

令和5年4月～5月市民説明会を実施

令和5年5月～6月パブリックコメントを実施

令和5年6月～7月教育委員会にて小諸市学校再編計画を議決

## 02 SECOND

変わる教育について

長野県教育委員会 学びの改革支援課

## 03 THIRD

少子化の進展、一人一人が活躍できる人材となるために、社会が求める人材とは

(株)BTM 会長 吉田様

31

・本懇話会の目的は、先ほどよりお話がありますように小諸市学校再編計画を策定する上で多くの皆様のご意見を取り入れることとしております。懇話会の中で丁寧な説明を心がけて参りますので皆様のご意見をいただきますようお願いいたします。

・スケジュールとしては、来年の3月までに学校再編計画案を策定するために、月に1回から2回の懇話会を実施します。

また11月頃に視察ができないか調整中ですので、詳細がきまりましたらご報告させていただきます。

・計画（案）策定後は、市民説明会、パブリックコメントを経て学校再編計画を策定いたします。

・ここまで皆様の任期となりますので、ご協力をお願いいたします。

・次回は10月14日（金）18:30～長野県の教育委員会事務局の方を講師に招いて、変わる教育についてご講演いただきます。

・次々回は10月25日（火）18:30～実際にどんな人材が社会で必要とされているのか、小諸市にもラボを出されてIT人材を育成している株式会社BTMの吉田会長を招いてお話を伺います。

引き続き皆様のご参加をお願いいたします。